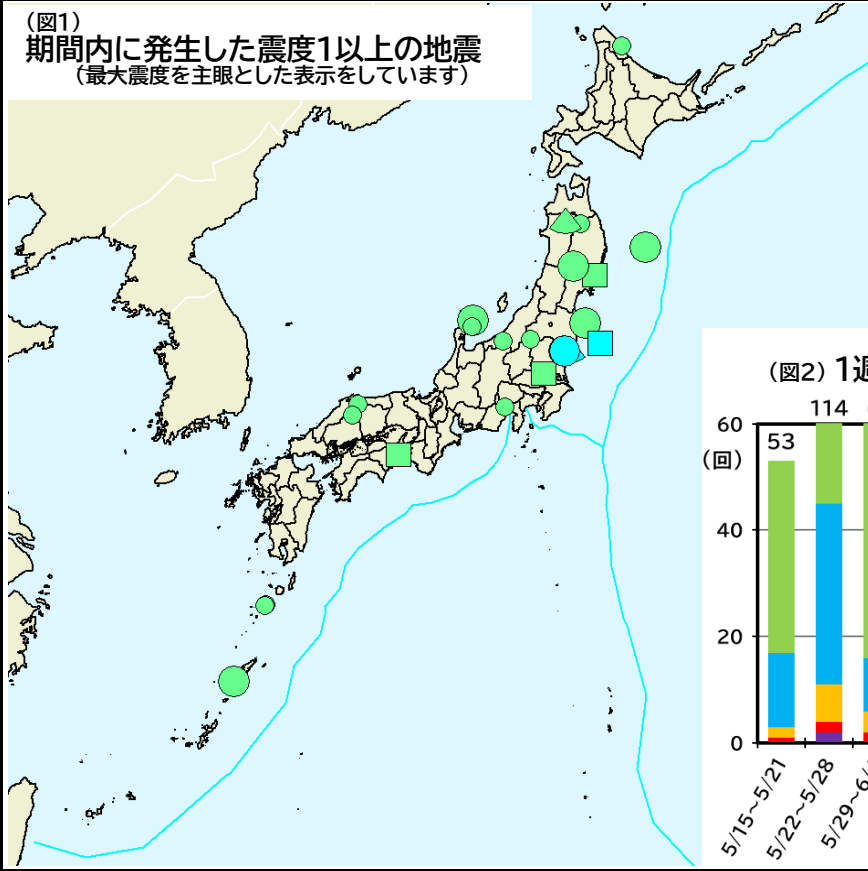


この期間の最大震度は2

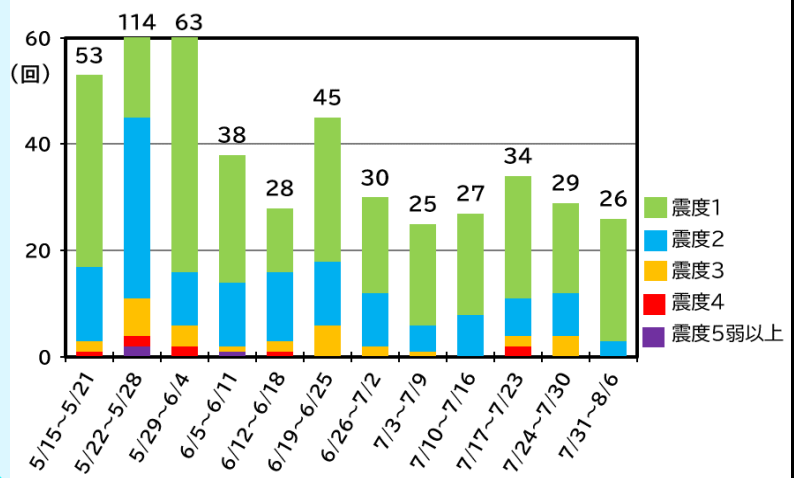
本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)

(図1) 期間内に発生した震度1以上の地震
(最大震度を主眼とした表示をしています)



最大震度	マグニチュード	深さ(km)
震度5弱以上	7.0	0
震度4	5.0	30
震度3	3.0	90
震度2		
震度1		

(図2) 1週間毎の最大震度別地震発生回数



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

■ この期間、震度1以上の地震が26回発生。最大震度は2。 ■
この期間に発生した地震は震度2以下で、数も少なく穏やかな期間でした。

トピックス

■ 震度とマグニチュード ■

- ・この週刊地震ニュースでは、発生した地震について震度とマグニチュードという2つの値をお知らせしているところですが、この2つの値について改めて記します。
- ・「震度」は、その場所で地面がどの程度揺れたかを表す値です。これは全国の約4,400箇所に設置されている震度計を用いて測定しています(1996(H8)年3月31日以前は、気象庁職員が体に感じた程度や周囲の状況から震度を決めていました)。震度は、0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7の10階級となっています。
- ・「マグニチュード」は地震の大きさを表す値で、地震計で観測された地震の記録(最大振幅あるいは地震波形全体)を用いて計算されます。
- ・マグニチュードの計算手法は1つではなく様々な計算手法があるため、1つの地震で複数のマグニチュードが存在することがあります。
- ・気象庁から発表されるマグニチュードには、「気象庁マグニチュード(Mj)」と「モーメントマグニチュード(Mw)」の2種類があります。
- ・2つのマグニチュードには、それぞれ下記のような長所と短所があり、気象庁は気象庁マグニチュードとモーメントマグニチュードそれぞれの長所を活かして発表する情報に使用しています(気象庁資料から抜粋)。

	気象庁マグニチュード(Mj)	モーメントマグニチュード(Mw)
長所	・地震発生直後に迅速に求めることができる。 ・地震の規模を精度よく反映しており、約100年間にわたって一貫した方法で決定されている。	・断層の面積と断層すべり量の積に比例する量であり、物理的な意味が明確。 ・巨大な地震の規模を求めることが可能。
短所	・経験式で物理的な意味が曖昧。 ・巨大な地震(M8を超えるものなど)の規模は正しく決められない。	・地震波形全体を詳細に分析する必要があるため、地震発生直後に迅速に計算することが困難。 ・規模の小さい地震で精度よく計算することが困難。
使用情報	津波警報の第1報や、地震・津波に関する情報。	・津波警報の第1報発表後の津波警報の更新時等。 ・巨大な地震で、Mjでは地震の規模を表すことができない場合。